

令和6年度 事業報告書

事業開始日： 2024年4月1日

事業完了日： 2025年3月31日

■実施事業

【1】普及事業（日本財団助成事業）

1. 剣道錬成大会の開催

(1) 第58回全国道場少年剣道大会

- a. 日程等：令和6年7月30日・31日
- b. 場 所：日本武道館
- c. 参加者：少年少女剣士 2日間で5,332名（監督数を含む）
※団体戦3人制で実施
※感染対策のためマスクまたはマウスシールド着用。
- d. 内 容：小学生の部、中学生の部 団体戦の実施

(2) 令和6年度都道府県道場少年剣道大会

- a. 日程等：4～6月
- b. 場 所：全国
- c. 参加者：少年少女剣士 31,695名

(3) 第40回全国道場対抗剣道大会

全国道場少年剣道選手権大会

（第48回小・中学生男子の部 第41回小・中学生女子の部）

- a. 日程等：令和6年10月20日
- b. 場 所：横浜武道館（神奈川県横浜市）
- c. 参加者：約1,000名（監督を含む）
- d. 内 容：
 - ア.道場対抗：小学生～指導者を1チームとし試合に臨む
 - イ.個人戦：各都道府県から選出された小中学生男女各個人の日本一を決定

A.成功したこととその要因

- ・全国道場少年剣道大会について、各会員道場の意欲的な活動により、47都道府県の全1333チームが欠場することなく会場に集まり、日本一を目指し試合を行うことで相互の親睦を深め心身を錬磨し、少年少女剣士の成長の場となった。
- ・同上の大会について、開催地である日本武道館と館内の安全管理について詳細に相談の上、館内の導線を工夫しアリーナの入場規制を行う等、スムーズかつ安全面を考慮した運営を行った。
- ・都道府県大会について、47都道府県支部の協力により、地域活性化にも繋がる大会（全国大会予選会）を行った。
- ・全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会について、開催地である神奈川県
の剣道を通じた地域活性化を図ると共に、中学生以下の門下生が少人数でも指導者、卒業生達と協力し出場できる道場対抗および個人戦の全国大会を実施し、連盟全体を盛り上げ、青少年健全育成、老若男女を問わない交流、生涯学習を推進した。

B.失敗したこととその要因

- ・全国道場少年剣道大会に繋がる都道府県大会について、参加人数がコロナ以前に戻りつつあるが、出場人数が増加傾向にあった時期と同等には戻っていない。
- ・各地域、道場毎に門下生数を維持できている団体と、減少している団体の差があり、全国的な剣道人口維持、増加の方策を打ち出せていない。

C.事業内容詳細

資料1：報告書 資料2：結果 資料3：写真

2. 講習会等の開催

(1) 全国選抜少年剣道合宿錬成会【中止】

(2) 剣道指導者研修会

ア. 第78回剣道道場指導者研修会

- a. 日程等：令和6年11月8日～10日
- b. 場 所：東京都 全日本少年剣道錬成会館
- c. 参加者：指導者等 46人

イ. 第79回剣道道場指導者研修会

- a. 日程等：令和7年3月14日～16日
- b. 場 所：東京都 全日本少年剣道錬成会館
- c. 参加者：指導者等 35人

(3) 地区剣道道場指導者講習会 2地区

ア. 中部地区（富山）剣道道場指導者講習会

- a. 日程等：令和6年10月26日・27日
- b. 場 所：富山県 富山市大山社会体育館
- c. 参加者：指導者等 26日 92人、27日 74人

イ. 九州地区（鹿児島）剣道道場指導者講習会

- a. 日程等：令和6年11月23日・24日
- b. 場 所：鹿児島県 日置市伊集院総合体育館
- c. 参加者：指導者等 23日 32人、24日 56人

A.成功したこととその要因

- ・(2)指導者研修会について、国内外で活躍する著名な先生に講師として協力頂き、各団体の指導者に講師陣が培ってきた経験を惜しみなく伝えて頂くことで指導者の技術・指導力向上に繋がった。
- ・(3) 地区指導者研修会について、担当支部の協力により多くの地元指導者及び今後指導者となっていく可能性がある段位、年齢の方に参加頂き、地区剣道の技術・指導力向上に繋がった。

B.失敗したこととその要因

- ・(1)少年合宿錬成会について、本年度も子供たちを日本全国から集めること、また宿泊を伴う合宿形式での受け入れが難しく、中止とした。尚、令和7年度事業として、以前は3泊4日で行っていた過程を4月1日～3日の日程に短縮し、6年ぶりに本事業を復

活させる。

C.事業内容詳細

資料1：報告書 資料2：写真

3. 日本剣道少年団

(1) 第47回日本剣道少年団研修会＜体験実践発表・錬成会＞

- a. 日程等：令和7年3月9日
- b. 場 所：東京都 東京武道館
- c. 内 容：各都道府県支部および9地区予選を経た小、中学生各9名合計18名が剣道から学んだことを発表。錬成会、書道展（一般事業）の開催。

(2) 海外交流

- a. 日程等：令和7年3月26日～29日
- b. 場 所：台湾
- c. 内 容：第58回全国道場少年剣道大会で優勝したチームの選手、全国道場少年剣道選手権大会（第48回小・中学生男子の部／第41回小・中学生女子の部）優勝選手を派遣。令和6年度は中学生女子の部優勝者参加辞退

A.成功したこととその要因

(1) 剣道少年団研修会について、各道場で少年少女剣士たちに作文の提出を促して頂き、技術や勝ち負けだけでなく少年少女剣士の心の成長や考えを多くの来場者に届ける貴重な機会を設けることができた。

(2) 海外交流について、6年ぶりに海外派遣を行った。台湾内の一部の道場との数年に亘る継続的な行き来により年々親交が深まってきており、台湾内の他の道場にも関係が広がるなど交友関係が定着し、派遣した少年少女剣士にも将来に繋がる国際感覚を身につけるよい経験の場となった。交流稽古会は一日のみだったが、台湾の歴史や文化に触れる時間を多く設け、他国に対する理解を深め剣道のみならず少年少女達の見聞を大いに広める機会となった。

B.失敗したこととその要因

海外交流について、訪問先の台湾のスケジュールの都合で例年より日程が短縮となり、交流稽古会も一日となった。しかし当日は多くの台湾剣士に集まって頂き深い文化交流を行い、その他の日程においては台湾指導者と交流を深めると共に台湾の歴史や文化を学び子供達の見聞を広め、国際感覚を身につける大変重要な時間となった。

C.事業内容詳細

資料1：報告書 資料2：結果 資料3：写真

4. ホームページの運営

連盟WEBサイトの維持運営、活動や大会記録等の公開を行った。

A.成功したこととその要因

SNSを活用し画像や動画を含め視覚的にも分かりやすい情報発信や活動報告を行い、い

いねボタン等でよい反応を得ていることを参考に、連盟の事業普及に努めた。

B.失敗したこととその要因

関係者や対外への情報発信、業務の効率化等のため WEB システムを充実化させたいが、レンタルサーバーのセキュリティ設定が時代に伴い複雑になる中、最新の専門知識に対応できる者が局内または関係者になく苦慮しており、信頼できる大手等に依頼すると費用が膨大になるため今後の対応について懸念が残る。

C.事業内容詳細

資料 1 : 報告書 資料 2 : アクセス数推移表
および全道連ホームページ掲載内容 (<https://www.zendoren.org/>)

【2】一般事業

1. 剣道大会の開催

(1) 第 23 回レディース剣道大会

- a. 日程等：令和 6 年 12 月 8 日
- b. 場 所：日野市市民の森ふれあいホール
- c. 参加者：小学生～一般 女性剣士 368 チーム 1472 名（監督数を含む）
- d. 内 容：女性によるジュニアの部、30 歳未満の部、30 歳以上 45 歳未満の部、45 歳以上 60 歳未満の部、60 歳以上の部の 3 人制団体戦を実施

2. 日本剣道少年団

(1) 第 47 回日本剣道少年団研修会＜書道展＞

- a. 日程等：令和 7 年 3 月 9 日
- b. 場 所：東京武道館
- c. 参加者：少年剣士（書道展は加盟外も可）応募作品数 2922 作
- d. 内 容：書道作品の募集、入選作品決定、展示

(2) 優秀剣道少年団指導顧問・団員表彰

- a. 日程等：3 月中旬に表彰者確定
- b. 対象者：加盟道場の指導者及び少年剣士 実績＝指導顧問 40 名、団員 88 名
- c. 内 容：剣道少年団活動の趣旨に従い、その活動を行った指導者、団員を表彰

3. その他の事業

少年剣士会員章（ワッペン）／少年剣士募集ポスター／大会後援事業、等

■助成事業目標の達成状況（日本財団報告事項）：

【1】基盤整備事業／【2】剣道の普及振興事業 共通

A.目標の達成状況

- 1.各都道府県大会には 31, 695 名、第 58 回全国道場少年剣道大会には 1, 333 チーム、第 41 回全国道場対抗剣道大会には 70 チーム、全国道場少年剣道選手権大会には 256 名が各支部選抜の上参加し、目標に向かい老若男女を問わず同じ道場で修練する仲間への感謝や周囲への配慮など、師弟同行の精神の学びを促し青少年健全育成を推進した。

- 2.作文発表（弁論大会）には全国で1, 497作品、書道作品は2, 922作品の応募があり、文武両道を目指し身体面、学業面でバランスのとれた青少年育成に努め、試合や勝負での経験だけでない心身合わせた成長の機会を設けた。また日本の伝統文化である剣道を通じた国際交流を行うことで海外との関係も深めると共に将来に役立つ国際感覚の涵養を促した。
- 3.少年合宿会は本年度中止となったが、代替案として令和5年度より実施している日本剣道少年団研修会第二部錬成会においては約200人の参加を得、少年少女の先輩にあたる著名選手、指導者を講師として招き、子供達の目に見える目標となって頂くと共に、子供たちは練習試合を通じて普段交流しない道場の門下生と剣を交え友好関係を広める場を設けた。
- 4.指導者講習会、研修会においては著名講師の講話、基本指導、実技指導により、日本の伝統文化としての剣道の質を高めると共に少年指導方法の向上を図った。
- 5.各支部の協力のもと、事業の更なる充実化、改善を図り、環境設備、保険の普及や大会運営の工夫により安全性の維持・改善を図り、多くの人が興味を持つ大会結果の更新を活用しインターネットの広報活動を行うなど会員確保に力を入れた。

B.事業実施によって得られた成果

- ・子供達が各大会を目指す中で、指導者、先輩、仲間、保護者らとの関わりを深め成長し、生涯に残る経験の場を設け青少年健全育成に繋がった。
- ・剣道を通じた経験を発表する体験実践発表において、少年少女剣士達がそれぞれに多くのことを学び他者への感謝や今後の目標を見つけるなど、子供達が心身ともに成長していることが分かった。またそれらの成長を発表し周囲の人たちに伝えると共に、少年剣道のよい点や魅力を広く知ってもらう機会を得られた。
- ・連盟独自に発行した冊子『幼少年剣道指導の手引き』（会員道場へ無償配布）により、パワハラ防止などコンプライアンスを重視した指導内容を発信し、関係者からよい反響があった。
- ・少子化による子供たちの減少、習い事の多様化の時代に会員数はほぼ横這いを保っていることから、更なる発展の課題は残るものの安定した成功を得ているものとする。

C.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

- ・各地、道場毎で門下生数を維持できている団体と、減少している団体の差があり、全国的な剣道人口維持、増加の方策を打ち出せていない状況である。
- ・特に東北地区は門下生の減少が深刻であるという声を支部事務局または加盟道場から聞くが、関東以南は深刻な声もある中、現状維持または会員道場が増えている支部もあり地域差がある。
- ・コロナ禍による密集の回避をきっかけに、門下生が少ない道場への対応ともなることから令和2年度より連盟の団体戦を5人制から3人制に変更している。大会への参加団体が増えた報告もある反面、剣道団体戦の魅力をより感じやすいという理由で5人制を希望する声もあり、各団体の活動状況によって意見にばらつきがある。各方面にとって良い方へ向かう対策、且つ剣道を始める子供、継続する子供を増やしていく方策を明確には打ち出せていない状況である。
- ・各地の会員確保については各都道府県支部の協力が最も重要であるため、支部がより良い活動、運営をしやすいようサポートを充実させていく。

■事業成果物（日本財団報告資料）

完了報告書等

- ・成果物を登録したウェブサイトの URL

（日本財団公益事業コミュニティサイト CANPAN）

基盤整備事業 <https://fields.canpan.info/report/detail/28738>

剣道の普及振興事業 <https://fields.canpan.info/report/detail/28740>

※本報告書の項目は、日本財団への事業完了報告書に準じる形式で作成した

以上